

Human Syndecan-4 Assay Kit - IBL

96 Well

1. はじめに

膜貫通型ヘパリン硫酸プロテオグリカン(HSPG)である Syndecanファミリーには、4つのメンバー(Syndecan-1/Syndecan, Syndecan-2/Fibroglycan, Syndecan-3/N-syndecan, Syndecan-4/Ryndocan (Amphyglycan))の存在が知られています。これらのHSPGはそれぞれ細胞種に特異的な分布をしており、血管内皮細胞においてはSyndecan-1、-2、-4の発現が主に細胞間・基底膜側に見られます。SyndecanファミリーはI型膜タンパクに属し、互いにその膜貫通ドメインおよび細胞質ドメインにホモロジーをもつファミリーを形成していることが判明しています。また、この膜貫通細胞内ドメインには位置の保存されたチロシン残基が4個存在しており、いずれかのチロシン残基がリン酸化されることにより細胞内情報伝達に参与する可能性も指摘されています。これらの細胞内ドメイン端は、Syndecan-1では細胞内マイクロフィラメントとの会合に、Syndecan-4では接着斑(focal adhesion)に参与していることが示されています。

このようにSyndecan-4は、血液抗凝固、細胞接着、細胞増殖など様々な生物学的機能を持つことが知られています。

本製品は、Human Syndecan-4を測定するために特異性の高い2種のポリクローナル抗体を用いたサンドイッチ法によるEIAキットです。

2. 原理および測定方法

本製品は、サンドイッチ法によるEIA (Enzyme Immuno Assay)キットです。1次抗体は、プレートに固相されていますので、検体および標準物質を加え、1次反応をおこない洗浄後 HRP 標識された2次抗体を加え2次反応をおこないます。反応後、過剰の2次抗体を洗浄除去します。Tetra Methyl Benzidine (TMB) により発色させます。この呈色は、Human Syndecan-4の量に比例します。

3. 測定範囲

20 ~ 1,280 pg/mL

4. 使用目的

■本製品はヒト血清、EDTA 血漿および培養細胞上清中の Human Syndecan-4 を測定できます。

■ヒトヘパリン血漿での測定はおすすめしません。

5. 構成試薬

1	抗体プレート (抗 Human Syndecan-4 Rabbit IgG A.P. 固相)	96Well x 1
2	標識抗体濃縮液 (30倍濃度 HRP 標識抗 Human Syndecan-4 Rabbit IgG Fab' A.P.)	0.4mL x 1
3	標準物質 (Human Syndecan-4)	0.5mL x 2
4	希釈用緩衝液 *	30mL x 1
5	標識抗体用溶解液 *	12mL x 1
6	TMB 基質液	15mL x 1
7	停止液*	12mL x 1
8	濃縮洗浄液*	50mL x 1

6. 用法および用量 (操作方法)

(1) 必要な器具・器材

プレートリーダー (測定波長: 450nm)	マイクロピペットおよびチップ
希釈用テストチューブ	メスシリンダーおよびビーカー
精製水	グラフ用紙 (両対数)
ペーパータオル	洗浄ピン
冷蔵庫 (4°C として)	採取用容器 (清潔な試験管など)
恒温器 (37°C±1°C)	

(2) 準備

濃縮洗浄液の希釈方法

濃縮洗浄液は、40倍濃度です。使用前に常温に戻し十分に転倒混和します。濃縮洗浄液 50mL に対して精製水を 1,950mL 加え混和します。これを洗浄液とします。冷蔵保存し2週間以内に使用してください。

標識抗体濃縮液の希釈方法

標識抗体濃縮液は30倍濃度です。

別に用意した採取用容器にて、必要量に応じて標識抗体濃縮液を標識抗体用溶解液で30倍希釈してください。これを標識抗体とします。

希釈例)

1スリット (8ウェル) 使用する場合=800 μL 必要(最低量)
(標識抗体濃縮液を30 μL とし、標識抗体用溶解液 870 μL を加え良く混和し、100 μL ずつ使用します。)

この操作は、標識抗体添加の直前におこなってください。

標識抗体濃縮液の残りは、蓋をしっかりと閉め冷蔵にて保存してください。有効期限内に再度使用できます。

標準物質の希釈方法

標準物質バイアル瓶に精製水を0.5 mL 加えて完全に溶解します。

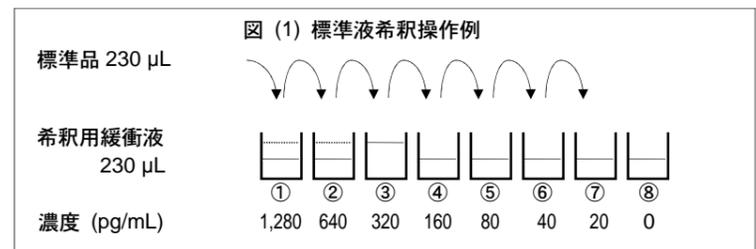
この時標準物質濃度は2,560 pg/mL となります。

希釈用テストチューブを8本用意し希釈用緩衝液を230 μL ずつ量り取り、各々のテストチューブに

1,280 pg/mL, 640 pg/mL, 320 pg/mL, 160 pg/mL, 80 pg/mL, 40 pg/mL, 20 pg/mL, 0 pg/mL の表示をします。

1,280 pg/mL の希釈用テストチューブに2,560 pg/mL の標準物質溶液を230 μL

加え混和しその溶液230 μL を640 pg/mL の希釈用テストチューブに加え混和します。順次2倍連続希釈をおこない1,280 pg/mL~20 pg/mL までの7点を希釈標準品とし、0 pg/mL を検体ブランクとします。(図(1) 参照)



検体の希釈方法

検体は必要に応じて希釈用緩衝液またはPBSで希釈し測定してください。

健康人血清、EDTA 血漿測定の希釈の目安は30倍以上です。測定範囲を超えた場合はさらに希釈して測定してください。

(3) 測定操作方法

試薬は使用前に常温に戻し、数回静かに転倒混和し変化のない事を確かめてください。

検体の測定と同時に希釈標準品を測定し検量線を設定してください。

- 1 ブランクの添加 (以降図(2) 参照)
試薬ブランクを設定し希釈用緩衝液を100 μL 入れます。
- 2 検体、希釈標準品の添加
検体100 μL および希釈標準品各100 μL ならびに検体ブランク100 μL を入れます。
- 3 プレートカバーをして37°C 60分間反応
- 4 ウェルの反応液を除去します。洗浄液を加え除去します。*
- 5 標識抗体の添加
検体、標準、検体ブランクに標識抗体を各々100 μL 添加します。
- 6 プレートカバーをして4°C 30分間反応
- 7 ウェルの反応液を除去します。洗浄液を加え除去します。*
- 8 TMB 基質液の添加
あらかじめ必要量を採取用容器にとり、そこからすべてのウェルにTMB 基質液を100 μL 添加します。TMB 基質液添加後、反応液は徐々に青色に変わります。この時の反応は遮光してください。また、採取用容器に残ったTMB 基質液は、コンタミの原因になりますので元に戻さないでください。
- 9 遮光をして常温30分間反応
- 10 停止液の添加
すべてのウェルに停止液を100 μL 添加します。プレートの側面を軽くたたいて混和します。反応液は青色から黄色に変化します。
- 11 吸光度測定
プレート底面のごれや水滴を拭き取り液面に気泡がないことを確認した後、30分以内に試薬ブランクを対照として検体および標準ならびに検体ブランクの波長450nmにおける吸光度を測定してください。

図(2) 測定操作一覧

	検体	標準	検体ブランク	試薬ブランク
試料	検体 100 μL	希釈標準品 100 μL	希釈用緩衝液 100 μL	希釈用緩衝液 100 μL
プレートカバーをして37°C 60分間反応				
4回 (洗浄液350 μL以上)*				
標識抗体	100 μL	100 μL	100 μL	-
プレートカバーをして4°C 30分間反応				
5回 (洗浄液350 μL以上)*				
TMB 基質液	100 μL	100 μL	100 μL	100 μL
遮光常温30分間反応				
停止液	100 μL	100 μL	100 μL	100 μL
プレートをたたいて反応液を混和し、30分以内に試薬ブランクを対照として450 nmにおける検体、標準、検体ブランクの吸光度を測定				

7. 操作上の注意事項

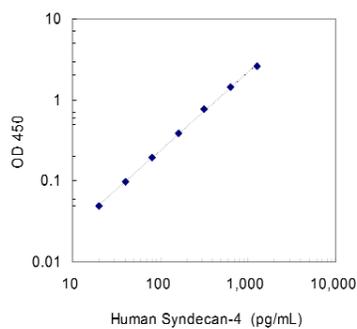
- 1 検体は、採取後速やかに測定してください。保存する場合は、凍結保存とし、検体の凍結融解を繰り返さないでください。また、融解は低温でおこない測定前に十分混和してください。
- 2 検体は必要に応じて希釈用緩衝液またはPBSにて希釈してください。
- 3 検体や標準物質は、二重測定することをおすすめします。
- 4 検体は、中性域のものを使用してください。また、有機溶媒等の混入も反応に障害がありますので注意してください。
- 5 抗体プレートの洗浄は必ず付属の洗浄液を使用してください。不十分な洗浄は、測定誤差の原因となりますので正確におこなってください。
- 6 洗浄液は、プレートをペーパータオルの上でたたいて完全に除去してください。ペーパータオルをウェルの中に入れる事はしないでください。
- 7 TMB 基質液は、光に対して敏感です。遮光保存してください。金属との接触も避けしてください。
- 8 吸光度測定は、停止液添加後30分間以内におこなってください。

8. 測定結果の算出方法

対数グラフの縦軸に吸光度を、横軸に検体濃度を取り各標準物質濃度の吸光度値から検体ブランクの吸光度値を引いた値をとり検量線を設定します。
 試料検体の吸光度値から検体ブランクの吸光度値を引いた値を検量線に当てはめ、検体濃度を読みとります。

9. 測定値と検量線作成例

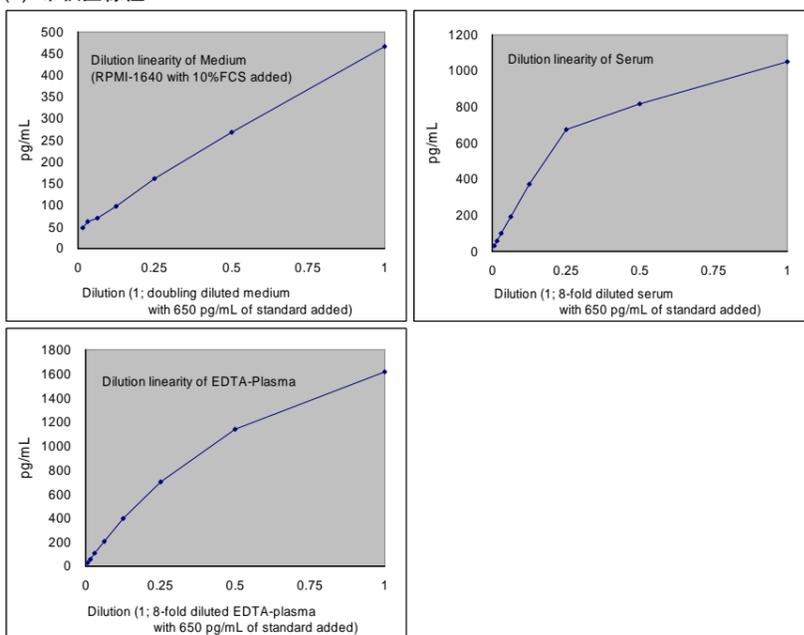
標準品濃度 (pg/mL)	吸光度 (450nm)
1,280	2.675
640	1.467
320	0.796
160	0.420
80	0.225
40	0.128
20	0.081
0 (検体ブランク)	0.031



上記検量線は作成例です。測定に当たってはその都度検量線を作成してください。

10. キットの性能

(1) 希釈直線性



(2) 添加回収試験

検体	理論値 (pg/mL)	測定値 (pg/mL)	%
培地 (10%FCS 添加 RPMI-1640) (x4)	1304.48	1081.25	82.9
	654.48	548.19	83.8
	329.48	276.65	84.0
	166.98	140.70	84.3
血清 (健康人) (x16)	1030.15	1017.60	98.8
	867.65	722.38	83.3
	786.40	685.54	87.2
	745.78	675.03	90.5
血漿 (EDTA) (健康人) (x16)	1257.57	1153.32	91.7
	1095.07	1087.05	99.3
	1013.82	994.89	98.1
	973.20	916.55	94.2

(3) 同時再現性

測定値 (pg/mL)	SD 値	CV 値 (%)	n
721.48	35.10	4.9	21
240.68	8.20	3.4	21
79.49	3.24	4.1	21

(4) 測定間再現性

測定値 (pg/mL)	SD 値	CV 値 (%)	n
718.06	4.02	0.6	3
245.52	4.85	2.0	3
80.69	1.63	2.0	3

(5) 特異性

測定物質	交差率
Human Syndecan-4	100 %
Human Tenascin-C	< 0.1 %
Human Osteopontin	< 0.1 %
Human IgG	< 0.1 %

(6) 感度

3.94 pg/mL
 本キットの感度は、NCCLS (National Committee for Clinical Laboratory Standards)の評価方法に従い求めました。(National Committee for Clinical Laboratory Standards Evaluation Protocols, SC1, (1989) Villanova, PA : NCCLS 参照)

11. 使用上または取り扱い上の注意

- 1 保存は、2~8°C としてください。使用前に全ての試薬は常温に戻してください。
- 2 標準物質は、凍結乾燥品です。開封は、十分注意しゆっくりとおこなってください。
- 3 停止液は強酸性 (1N 硫酸) です。衣服 皮膚等への接触および廃棄には十分注意してください。
- 4 使用後の抗体プレートや試薬は、多量の水で洗い流してから廃棄してください。
- 5 標識抗体濃縮液は、まれに析出を認める場合がありますが、性能に問題はありません。
- 6 構成試薬には動物血液成分を含む物があります。取り扱いに注意し使用後は手洗いなどをおこなってください。
- 7 ロットが異なる製品の構成試薬や他のキットの構成試薬を混ぜたり、交換したりして使用することは避けてください。
- 8 有効期限切れの試薬は、使用しないでください。
- 9 本キットは、研究用試薬です。診断等に用いることはできません。

12. 保存方法および有効期限

2~8°C 保存
 使用期限は外箱に記載

13. 包装単位および製品番号

96 Well
 製品番号 27188

14. 参考文献

1. Kojima T, Takagi A, Maeda M, Segawa T, Shimizu A, Yamamoto K, Matsushita T, Saito H. Plasma levels of syndecan-4 (ryudocan) are elevated in patients with acute myocardial infarction. Thromb Haemost. 2001 May;85(5):793-9.

15. 問合せ先

株式会社 免疫生物研究所